

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2013
No.104

9

大洲



どの梨もおいしそうだな

がんばる大洲っ子



今月の題字作成者

平小学校6年（現：大洲北中学校1年）

智葉 そらのさん

私は小学生の頃から、サッカーのクラブチームに所属しています。中学生になつて、サッカーにも役立てられると思いい陸上部に入りました。

陸上部では、中距離走を専門に練習をしています。私の目標は、総体や記録会、県大会などで、良い記録が出せるようになることです。

週末には、午前中に陸上の練習をして、午後からサッカーの練習に参加することもあり、大変な時もあります。しかし、どちらも大好きなことなので、「継続は力なり」をモットーに、これからも頑張りたいと思います。

【お詫び】

広報大洲8月号の5ページで、「豊茂地区自主防災組織で市内初となる女性会長が選出されました。」と紹介しましたが、「南久米地区」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

9月の納税など

納期限は9月30日(月)です

税 別	9月	10月	11月	12月
市 県 民 税		3期		4期
固 定 資 産 税	3期		4期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	3期	4期	5期	6期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を！

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	47,078人 (-9)	件数 89件(113件)
男	22,404人 (-5)	死者 1人(1人)
女	24,674人 (-4)	負傷者 106人(133人)
世帯数	20,280世帯(+2)	

(2013年7月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	命の尊さを考え、 ともに生きるために（特集） ～ペットを飼う責任～
8ページ～	シリーズ
11ページ	まちのわだい
12ページ	おおずニュース
13ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと（大谷文楽座）

今月の表紙

picture 写真



8月2日(金)、上須戒地区の一の瀬団地で行われた「梨狩り」取材しました。

地元子どもたちは、先生の補助を受けながら懸命に梨へ手を伸ばし、梨狩りのお手伝いを行いました。

一仕事を終えた後、用意されていた甘いご褒美を、おいしそうに食べていました。



命の尊さを考え、ともに生きるために ～ペットを飼う責任～

なぜペットを飼うのでしょうか。
かわいいから、孤独を解消して
くれるから、子どもの遊び相手と
してなど、理由は人それぞれある
と思います。

ペットフード事業者を中心に組
織された「ペットフード協会」の推
計によると、全国で約2130万
匹の犬や猫が、ペットとして飼育さ
れているそうです。犬や猫以外の
動物などのことも考えると、その
数は膨大といえます。

ペットを飼う場合、毎日餌を用
意したり、散歩の時にはふんを処
理するなど、さまざまな世話をす
る必要があります。想像以上に負担が
増えることもあります。そのこと
を理解し考えておかなければ、「こ
んなはずじゃなかった」「飼うべき
じゃなかった」などという状況に
陥ってしまうかもしれません。

飼い主から愛情を注がれ、幸せ
に暮らしているペットがいる一方
で、飼い主のストレス発散のため
に虐待を受けたり、飼い主の都合
で捨てられているペットもいるの
が現状です。

飼い始める理由は人それぞれ違
っていても、飼い主の責任に違い
はありません。まずは、私たち飼
う側が命の大切さ、尊さをしっか
り認識しなくてはなりません。

歴史を知る

ペットと家畜の歴史は古く、約3万年前の遺跡から、ホラアナグマの飼育跡が発見されています。オオカミ(犬)の家畜化もその頃から始まったと考えられ、イノシシ(豚)、ヤギ、牛、馬などと続きます。また、約5千年前の古代エジプト時代には、ピューマをペットとして飼っていた記録が残っています。

多くの人が飼っている犬と猫にも、長い歴史があります。犬の場合には、はっきりした主従関係を好む習性から、家族の一員として扱われた歴史が長いとされています。石器時代のものでしょうか。犬の墳墓も発見されています。

一方猫科の動物は、古代エジプト時代に神格化されたこともあり、高貴な身分にふさわしいペットとして扱われた歴史があります。そのため、当時から今日のようなペットに近い存在であったと推測されます。

現代のペットは、家族として、パートナーとして、仲間として人の暮らしに密接に関わるようになっていきます。

無責任が招くこと

ペットを飼いたいと思った時には、「ペットショップで購入する」「公共の収容センターでの里親募集に応募する」「知人に譲ってもらう」などの手段があります。

最近では、店頭やインターネットなどで手軽に購入することができ、欲しいと思った時に欲しい動物を、簡単に手に入れることができます。そのため、ペットを物品のように扱い、飽きたから捨てる人や、一時的なブームで飼いはじめ、ブームが去ったから捨てる人もいます。

また、飼い主の不注意で逃げ出してしまうこともあります。捨てられたり逃げ出したペットは、環境にも悪影響を及ぼすこともあります。

海外から輸入されたペットが野生化し、従来からその地域でつくられてきた生態系を破壊してしまうケースが、日本各地で数多く見受けられます。そのため日本生態学会では、国内で確認されている外来種の中でも、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリスト、「日本の侵略的外来種ワ

スト100」を定め、そのなかでも、規制、防除の対象とするものを特定外来種に指定しています。他にも、エサを求めて家畜を襲ったり、ゴミ捨て場のゴミを食い散らかしたり、田畑や山の作物を荒らしたり、時には人が襲われる、けが人が出るなどの被害を受けることもあります。

さらに、花壇や公園の砂場など、あたりかまわず排せつをする

ことがあります。特に幼児が遊ぶことの多い砂場では、遊びの途中に、汚れた手で口や目を触ってしまうことがあるため、寄生虫による病気や感染症になることがあります。衛生面においても問題が発生しています。

これらの問題は、動物たちが加害者のように思われますが、根本的な原因は、無責任な飼い主にあります。動物たちも被害者です。



特定外来種のソウシチョウ(上)、ヒゲガビチョウ(下)

失われていく「命」

さまざまな理由で飼うことができなくなったペットや、捕獲された動物などが、各自自治体で引き取られていることをご存知ですか。

ペットを含め、愛媛県動物愛護センターに引き取られた全ての犬や猫の数は、愛媛県全体で毎年、犬は1500匹以上、猫は4000匹以上です。大洲市の場合、犬は100匹以上、猫は

200匹以上が引き取られ、そのうち、飼い犬は20匹以上、飼い猫は10匹以上います。

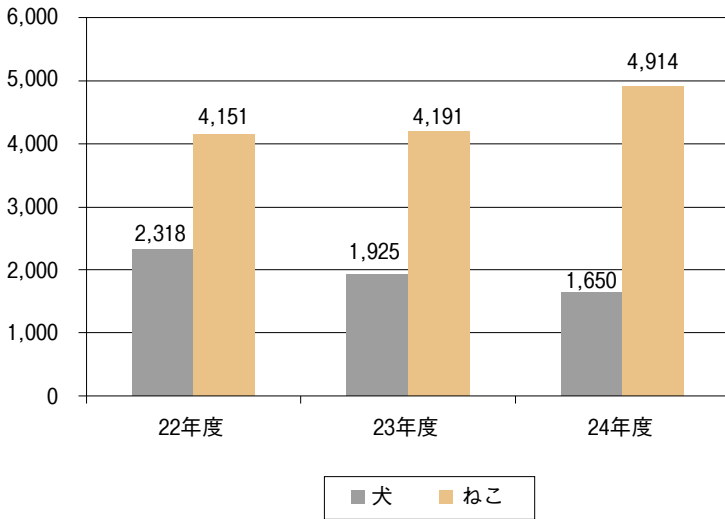
動物愛護センターに送られた犬や猫の一部は、新たな飼い主に譲渡されることもあります。しかし、約95%の犬猫はそのまま処分されることとなります。

このように、多くの動物たちの尊い命が、毎年失われているとい

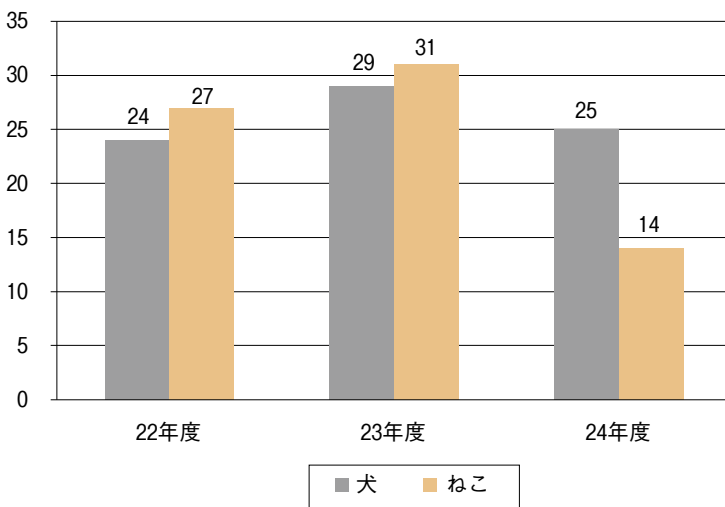
うことは、あまり知られていないと思います。この数字が多いか少ないかは、人によって意見が分かれるところですが、考えなければならぬのは、全て「命」だということなのです。

ペットを飼う前に、まずしっかりと計画と準備が必要です。それを考えておくのも、飼い主の責任の一つです。

【愛媛県】 犬・猫引き取り頭数



【大洲市】 飼い犬・飼い猫引き取り頭数



- ▽家族全員がペットを飼うことに賛成していますか
手のかかる家族が増えます。しつけや健康管理は家族の責任です。
- ▽終生飼えますか
毎日の散歩、食事やトイレの世話などで留守にできません。介護が必要になるかもしれません。
- ▽ペットを飼うのに適した環境ですか
団地やマンション、借家にお住いの人は、ペットの飼育を禁止されていませんか。ルールを守りましょう。
- ▽転勤や引っ越しなどの心配はないですか
転勤や引っ越し先で飼えなくなることもあります。

- ▽繁殖制限の必要性を理解できますか
生まれた子どもを処分するようであれば、繁殖制限は必要です。
- ▽経済的余裕はありますか
食事や生活必需品、医療費などの出費が増えます。
- ▽ご近所に迷惑をかけずに飼えますか
最低限のしつけ、放し飼いの禁止、散歩時のふんの始末など飼い主の責任です。
- ▽法律や条例などの決まりを守れますか
犬の場合、登録や狂犬病予防注射など、飼い主の義務を順守しましょう。

大切な家族の一員として

捨てられたり処分されるペットがいる一方で、ペットを飼うことで、孤独が解消されたり、かわいいうさなど癒されるなどという理由で、家族のように大切にされているペットもいます。

最近では、ペットを人と同じように考える人も増え、命そのものを大切にする意識が広がりつつあります。ペットの性別を「オス」「メス」ではなく「男の子」「女の子」と呼んだり、「エサをやる」ではなく「食事あげる」と表現し、人と同一視するケースもあり、ペットの家族化が進んでいると思われまます。

また、ペットの家族化が進むにつれて、ペットに遺産を相続させたいと考える人も現れています。現在の日本の法律では、ペットは物として扱われるため相続人には指定できません。しかし、どうしても遺産を相続させるために、ペットの世話をすることを条件に、世話人に遺産を相続させる手法がとられているそうです。その際、ペットの世話をしているか監視を行う遺言執行者を置き、世話をしない場合には、相続を取り消すことまで考え

られているそうです。

遺産相続は極端な例としても、ペットを大切にする動きは増えています。最近では、ペット専用ホテル、損害保険や健康保険、葬儀サービスなども登場しました。なかには、老犬の終生まで世話をする、老犬ホームも設立され、現在のペット関連産業の市場規模は、1兆3千億円ともいわれています。

そのような中で、単身者や子育てを終えた夫婦などが、ペットをわが子同然に育てることで、新たな問題も起きています。

一緒に暮らしていたペットが、病気や事故などで死亡した場合、その死をきっかけにペットロス症候群になる人がいます。ペットロス症候群とは、憂うつな気分や空虚感、不眠、体調不良など、精神的、身体的不調を引き起こすものです。また、ペットのなかには、飼い主の過度の愛玩がストレスになり、円形脱毛症や胃潰瘍になる場合もあります。

ペットを家族同様に愛することは大切ですが、適度な距離を保ち生活することも大事なことです。



西岡 ^{たいら}平 さん
(長浜)



私は現在、犬3匹、ポニー2頭、カメ2匹を飼っています。

約3か月前、孫と一緒にペットショップに行き、そこで運命の出会いがありました。私をじっと見つめ、連れて帰ってほしいようにしている動物がいました。それが、最近家族になったケヅメリクガメのダンボ君です。

ケヅメリクガメを飼うのは初めてなので、本を購入し飼育方法などを調べました。食事は、野菜や果物が中心で、1回の食事で、レタス1玉、キュウリ3本、ミニトマト5個くらいを準備しておく、自分が食べたい量を食べ、満足すると自分の部屋に戻ります。

あまり一般的に飼われている

ペットではないので、病気になるのが一番心配です。少しでも気になることがあれば、丹原の動物病院に電話をして、アドバイスしてもらっています。

私にとってペットは、家族と同様に大切な存在です。子どもや孫たちも、ペットを家族と思って仲良くしてほしいと思いますし、かわいがってくれると思います。

私は、ペットを飼うことで、思いやりの心や、生き物を大切にしている心が養われ、他人の痛みが分かる人になれると思っています。これからも、大切な家族の一員として、ペットたちと末永く付き合っていきたいと思っています。

仲間とつて、相棒とつて

みなさんは、「アニマルスポーツ」という言葉を耳にしたことがありませんか。このスポーツは、動物ともに行う競技のことで、動物のみで行う闘犬や闘牛、鳥の鳴きくらべなどと、人と動物が一緒に行う犬ぞりや馬術、ディスクドッグ競技などがあります。

これらの競技は、人と動物の信頼関係がなければ成り立たないと

いわれています。言葉の通じない人

と動物が信頼関係を築くには、普段から一緒に生活をして、お互いを理解する必要があります。そのため、多くの競技者が、普段はペットとして、家族の一員として接しています。しかし、練習や競技を行う時には信頼している仲間として、目的を達成するための相棒としての行動をとっています。

これらの競技を見る人にとって

は、動物の躍動感やしなやかさなどを感ずることができるといふ醍醐味があります。一方、競技をする人にとつては、人と動物でなければ味わうことのできない達成感や充実感が魅力です。人と動物が、まるで人と人のようにつながりが持てることは、とても素敵なことです。



喜多医師会病院勤務

西原 和郎 さん
(松山市)

私は、馬を飼い始めて約20年になります。運動不足を解消するために、趣味の馬術（障害飛越）を本格的にやってみようと思ったのがきっかけでした。馬術競技では、人間と馬との信頼関係、絆が大切になるので、ペットというよりは一緒に競技を行う仲間、相棒という意識で接しています。

現在、長浜町沖浦にある施設に預けていますが、馬は疝痛（腸閉塞）を起こしやすいため、健康管理にはかなり気を遣っていただいています。

馬術競技は、年齢に関係なく競技を続けることができます。私は、今までに何度か大会に出場して、数回の優勝をしたことがあります。現在の目標は、平成29年開催予定の愛媛国体に愛媛県代表選手として、相棒ケイアイコンセプト号とともに出場することです。それには、私、相棒、どちらが欠けても達成することができません。

これからも、目標達成に向かって、人馬一体となって練習に励んでいきます。



責任、義務、愛情

ペットを飼う時には、「かわいいペット」だけでなく、自分と同じ「命のある生き物」だという認識を持つ必要があります。命を預かり、責任をもって一生を見届ける意識と覚悟、それに愛情があれば「この家族の一員になれて良かった」とペットも思うことでしょう。

飼い主の愛情は、必ずペットに伝わります。そして、お互いを思う気持ちがお互いを幸せにします。ペットを飼い始める理由も、餓えなくなる理由もそれぞれあります。しかし、一度飼うことを決めたのであれば、最後まで責任と義務を忘れてはいけません。

欲しいものが手軽に手に入る時代だからこそ、無くしてはいけないものがあります。それを認識しなければ、同じ社会に生きる「命」が失われることになります。

飼い主の都合でペットの命が左右されることは、決してあってはなりません。

あなたの隣にいるのは、私たちと同じ「命」だということを忘れないでください。